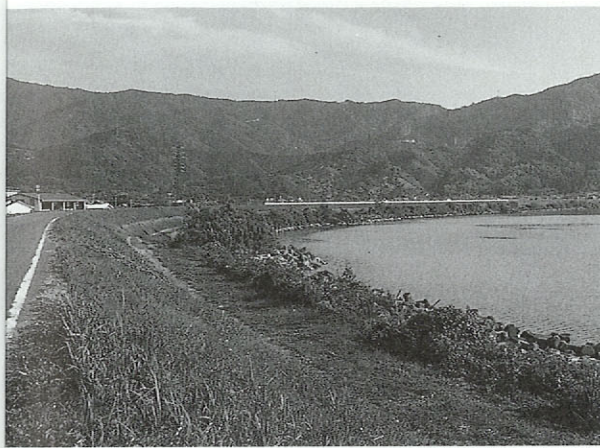


植木学校の人びと 集権・民権・対決

光岡 明

(熊本近代文学館館長)



宮崎八郎戦死の場(萩原堤)



宮崎八郎



平川惟一

自由民権運動のきっかけを作ったのは、全国的には明治七年一月、板垣退助、副島種臣、後藤象二郎、江藤新平らによる「民撰(せん)議院設立」建白であり、熊本では明治八年四月、山本郡(現鹿本郡)植木町にできた「植木学校(正確には植木中学校)」開設であったと言われています。

植木学校に参集した人びとには、平川惟一、崎村常雄、松山守善、有馬源内、高田露らの下級士族、広田尚、宮崎八郎、野満安親、同長太郎、瀬上幾、堀善三郎らの豪農層でした。学校での指導権をにぎったのは士族層ですが、その行動が派手で有名なのは宮崎八郎です。民権党と呼ばれました。

当時、明治政府は学制(明治五年八月)徴兵令(明治六年一月)地租改正(同年七月)のいわゆる「三大改革」を推進していました。近代国家に脱皮するための当然の施策ですけれども、そのやり方は中央集権的であり、有司専制(一部高級官僚が政権をほしいままにする

体制のことです)と言われるように強権的でした。

いっぽうで特権を剥奪された旧士族の不満はくすぶりつづけていましたし、徴兵や地租改正による税負担増は一般民衆の間にも不満がひろがり、一揆が全国的に起こっていました。先の民撰議院設立建白をした人びとは明治三年の征韓論でやぶれ、下野した一派です。さらに征韓論で下野した最大の人に、西郷隆盛がいて、その一統も鹿児島に帰っていました。

こういった社会情勢を背景に、自由民権運動が起こってくるのです。民権党の一人、宮崎八郎は東京遊学中に、中江兆民の仏学塾でルソーのフランス流民権思想にふれ、植木学校ではルソーの「民約論」も講義されますが、自由民権思想そのものが一般民衆の間に、どの程度の深まりと広がりをみせたか、はつきりとはわかりません。しかし民権党に指導された城北地方の戸長征伐(戸長の不正を摘発する大衆行



植木学校跡

動のことです)は、かなり整然と行なわれたようですし、戸長民選の要求もかかっていたから、自由民権の萌芽があったことは事実でしょう。

こういう社会的不満を解消するため、明治政府は明治八年四月になって、漸次立憲体制へ移行するという詔勅を出し、まず地方官会議を開くという方針を打ち出します。五月には熊本の安岡良亮権令(十二月から県令)も区戸長会を開催して「民会興隆之事」を諮問します。安岡権令自身は公選民会には時期尚早論をとっていました。東京で開かれた地方官会議まで、はるばる熊本から追いかけた宮崎八郎の民会開設要求をはねつけています。

しかし、熊本の民衆の不満は高まるばかりでした。明治九年三月、さすがの安岡県令も臨時民会規則を公布し、四月から六月にかけて選挙が行なわれ、七月に県民会が開かれるのですが、議案の第一番目は区戸長の公選どころか、月給増額の件でした。県民会と安岡県令の対決は、結果的には県民会の議決は単なる参考意見にすぎないという安岡県令に押しきられていきます。前に書きましたように、同年の一月に熊本バンドの結盟があり、そして十月、神風連の乱が起こって、安岡県令は殺されるのです。熊本もまさに疾風

怒濤の時代でした。熊本以外でもたてつづけに秋月の乱、萩の乱が勃発します。そしていよいよ明治十年二月、西郷隆盛が大軍を率いて鹿児島を進発、西南戦争がはじまるのです。

歴史は時に理窟では割り切れぬ動きをするものだ、と私は思います。自由民権を主張する民権党が、天皇親政をめざす(猪飼隆明熊大教授の「西南戦争―その背景と民衆」(新熊本の歴史六巻)をぜひお読みください。わかりやすく丁寧な論考です)西郷隆盛とその思想が同じであるわけではありません。しかし民権党は協同隊として西郷軍に加わります。同時に池辺吉十郎、佐々友房ら学校党(藩校時習館の流れをくみ、保守的な幕藩時代のエリート層です)も熊本隊として参加するのですから、西南戦争は不満という不満をすべて結集する形で広がりました。

松山守善が宮崎八郎に「西郷は武断主義であり、われわれの理想主義とはあいれないと思うが」と聞くと、宮崎八郎は「そのとおりだが、西郷でなければ政府を倒すことができません。倒したあと西郷と主義の戦いをするのだ」と答えたといっています。そして宮崎八郎は西郷軍に参加したあと、悔いる発言をしています。

みなさんがご存知のとおり、西郷軍

は熊本城を抜くことができず、田原坂の決戦で負けると鹿児島に追いつめられ、西郷の自刃で終わります。平川惟一、宮崎八郎、崎村常雄ら民権党の主だった人びとも戦死または獄死して、民権党は壊滅します。

自由民権運動そのものは、その後も相愛社、自愛会、立憲自由党、公議政党、九州改進黨とつづいていきますが、その初期でこのような歴史の悲劇があったことは、熊本県民として知っておいていいと思います。自由民権が思想として展開する前に、不満を解消する運動として展開したところに原因があったのではないのでしょうか。



弾痕の家